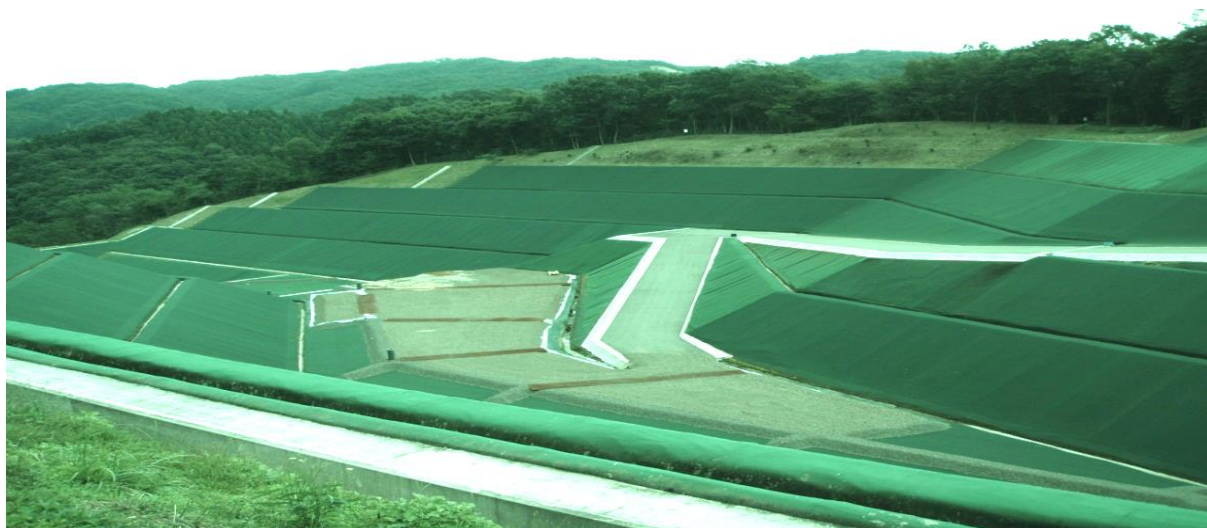


2015年度

# 環境活動レポート

2015年度版(対象期間:平成27年9月~平成28年8月)



今回発行: 2016年 10月 31日

次回発行: 2017年 10月(発行予定)

株式会社 商報舎 坊主滝事業所

## 目次

- 1 環境方針
- 2 組織の概要
- 3 対象範囲
- 4 環境目標
- 5 環境活動計画
- 6 環境目標の実績
- 7 環境活動計画の取組結果の評価並びに次年度の取組内容
- 8 環境関連法規への違反、訴訟の有無
- 9 代表者による全体の評価と見直しの結果

株式会社 商報舎

## 環境方針

### <基本理念>

株式会社 商報舎 坊主滝最終処分場は、企業活動において、地球環境保全が最重要課題であることを認識し、環境に優しい社会に貢献します。

### <行動指針>

- 1, 環境関連の関係法令及び公害防止協定等を尊重し環境保全に努めます。
- 2, 受託する産業廃棄物の再資源化を推進する提案をすることで、リサイクルの向上に結びつけていきます。
- 3, 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び総排水量の抑制に努めます。
- 4, 環境目標を定め、継続的に改善活動を行います。
- 5, 関係官庁・団体及び地域社会とのコミュニケーションを図り、共生を推進します。
- 6, 社員及び常駐の関係者に環境方針・環境目標を周知させるとともに、公開します。
- 7, 環境方針の定期的な見直しを行います。

制定 平成23年12月 1日  
改訂 平成24年11月 1日

株式会社 商報舎

代表取締役 佐藤真介

## 2 組織の概要

### (1)事業者名及び代表者名

株式会社 商報舎 代表取締役 佐藤 真介

### (2)事業活動の内容

- ・産業廃棄物の管理型最終処分場の運営
- ・産業廃棄物の収集運搬の運営

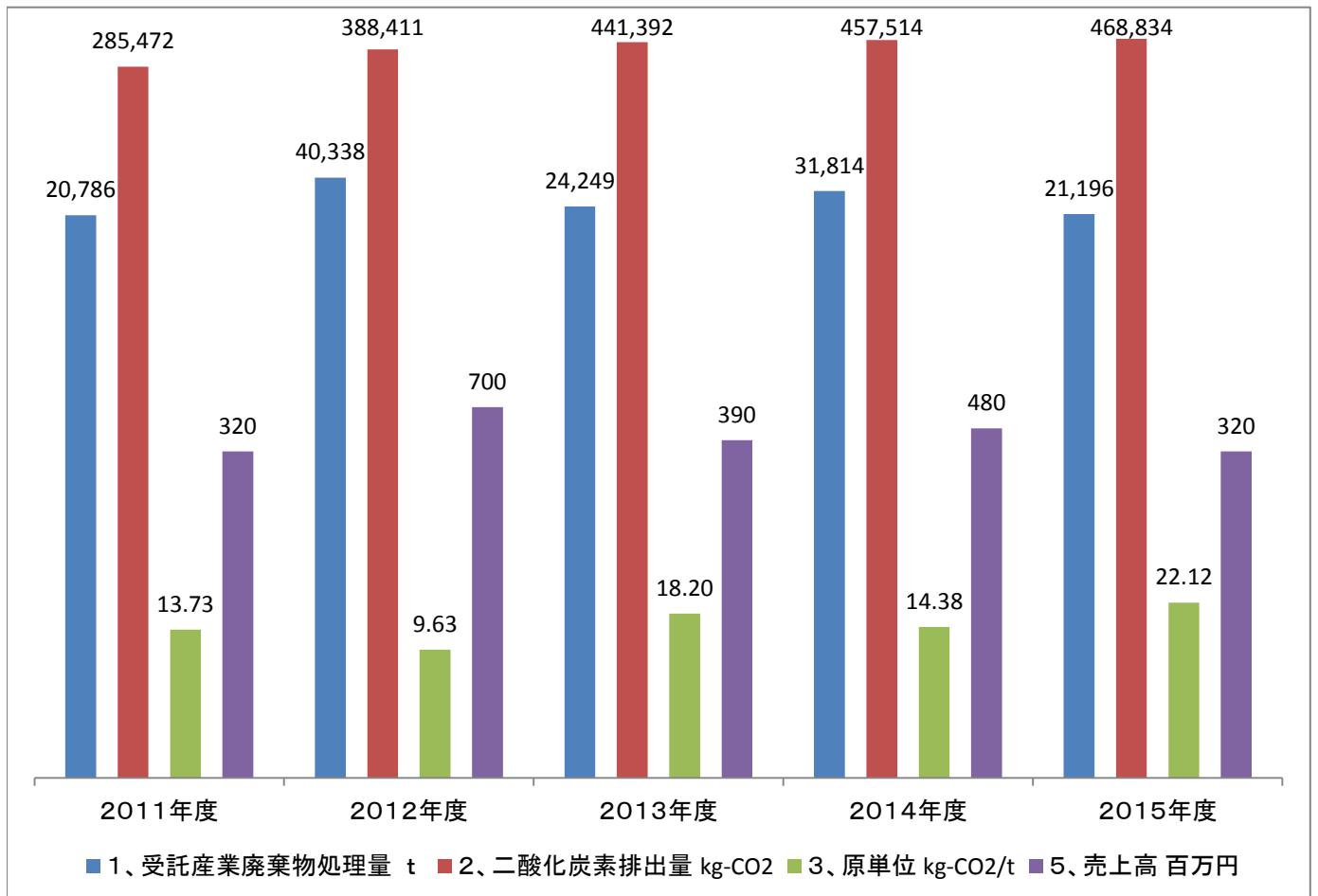
### (3)所在地と連絡先(担当者)

事務所・処分場 福島県二本松市坊主滝7番地1  
 連絡先(TEL・FAX)0243-23-5133  
 環境管理責任者 安齋 好則  
 連絡担当者 鈴木 秀樹

### (4)事業の規模

創業 昭和16年11月 資本金 1,000万円  
 平成19年 3月 第3処分場竣工  
 売上高と従業員数

規模	単位	年	2011年度 11/9~12/8	2012年度 12/9~13/8	2013年度 13/9~14/8	2014年度 14/9~15/8	2015年度 15/9~16/8
1、受託産業廃棄物処理量	t		20,786	40,338	24,249	31,814	21,196
2、二酸化炭素排出量	kg-CO2		285,472	388,411	441,392	457,514	468,834
3、原単位	kg-CO2/t		13.73	9.63	18.20	14.38	22.12
4、収集運搬量	t		-	-	-	7	-
5、売上高	百万円		320	700	390	480	320
6、従業員数	人		8	8	8	9	9
7、総処理水量	m <sup>3</sup>		10,344	12,193	19,073	14,945	16,614
8、降雨量/年	mm		1,266	1,159	1,219	1,289	894



(5)許可の内容

許可番号	第00730018753号
許可年月日	平成28年7月15日
許可の有効期限	平成31年5月22日
事業計画の区分	管理型最終処分場
廃棄物の種類	①汚泥 ②金属くず ③鋳さい ④がれき類 ⑤ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に従って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(これらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く。)以上5種類。

許可番号	第00707018753号
許可年月日	平成26年7月10日
許可の有効期限	平成31年7月9日
事業計画の区分	収集運搬(積替え及び保管行為を含まない。)
廃棄物の種類	汚泥、金属くず、鋳さい、がれき類 (これらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く。)以上4種類。

(6)施設などの状況

- |             |                                |
|-------------|--------------------------------|
| 1、処理施設の種類   | 管理型最終処分場                       |
| 2、処理する産廃の種類 | (5) 許可の内容に記載                   |
| 3、処理能力      | 埋立地面積 22,356㎡<br>埋立容量 234,400㎡ |
| 4、処理方式      | サンドイッチ工法                       |
| 5、処理工程図     | 末尾「処理工程概略図」に示す                 |

(7)収集運搬車両の種類と台数

4tユニック車 1台

3 対象範囲

(1)認証の対象範囲

(株) 商報舎 坊主滝事業所

(2)認証の対象活動

産業廃棄物最終処分業

(3)全組織・全活動について

事業所は全国に6ヶ所あるが、独立して事業を実施している事業所は坊主滝事業所だけである。他の事業所は、依頼先会社の製造ラインの一部を請け負っている事業内容であり、依頼先会社の環境経営マネジメントシステム(ISO14001)の中に組み込まれ環境経営を実施している。従って、今後、他の事業所において、エコアクション21の認証を取得するスケジュールはない。尚、本社は、賃貸ビルに入っていて管理費等も含まれている。社員は、2名で、半日しか滞在して作業しないことから、環境負荷も低いので本社は含めないこととする。なお、省エネに対しての活動は、実施してもらうようにします。

(4)対象取組期間

環境活動レポートの対象取組期間  
2015年9月1日～2016年8月31日

#### 4 環境目標

環境方針と環境影響評価の結果に基づき、環境目標を次の通りに定める。

- 1、二酸化炭素排出量の削減
- 2、廃棄物排出量の削減
- 3、総排水量の削減
- 4、化学物質使用量の削減
- 5、グリーン購入の推進
- 6、社会貢献活動への積極的参加

以上の環境目標の達成期限は、平成28年8月とする。すなわち毎年見直しを行います。

##### (1) 主な環境負荷の実績

2015年9月1日～2016年8月31日の当社における主な環境負荷の実績は、下表に示す通りです。

二酸化炭素排出量(kg-CO2)			廃棄物排出量(t)		使用量(m <sup>3</sup> )
電力(係数0.547)	灯油・LPG	ガソリン・軽油	一般廃棄物	産業廃棄物	水使用量
18,023	754	50,912	0.1	35	32

\* 平成24年度、東北電力株のCO2排出係数0.547(kg-CO2/kWh)を使用。

##### (2) 環境目標(短期・中長期)の設定

二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排出量の必須3項目並びに自主設定項目について、単年度目標並びに中長期目標を下記のように設定しました。

	単年度目標	中長期目標
	2015年度(H27.9～H28.8)	2013～2017年度 (平成25年度～平成29年度 5年間)
二酸化炭素排出量	基準年度の0.6%/年削減	2017年度までに2012年度実績の排出量3%削減を目指す。
廃棄物排出量	基準年度の0.6%/年削減	2017年度までに2012年度実績の排出量3%削減を目指す。

	単年度目標	中長期目標
	2015年度(H27.9～H28.8)	2013～2017年度 (平成25年度～平成29年度 5年間)
総排水量(水使用量)	基準年度の0.6%/年削減	2017年度までに2012年度実績の排出量3%削減を目指す。
化学物質使用量	PRTR法対象物質は使用していない。その他の物質を3品目(①PAC②10%硫酸③消石灰)使用しています。但し、処理工程が決められており自らの判断で削減することができませんが化学物質を適正に管理していることを定期的に確認します。	
グリーン購入	グリーン購入を推進していく	グリーン購入を推進していく
社会貢献活動	搬入路の整備等	搬入路の整備等

(3) 平成27年度(取組対象期間)環境目標値

(2)の考え方に従って2012年度実績を基に、2015年度(H27. 9～H28. 8)の具体的目標値を下記のように算出しました。

	2012年度実績(基準年) (2012. 9～2013. 8)	2015年度目標(基準年度排出量の1.8%減) (2015. 9～2016. 8)
二酸化炭素排出量		
1) 電力	19,438kg-CO2	19,088kg-CO2
2) 灯油・LPG	405kg-CO2	398kg-CO2
3) ガソリン・軽油	42,094kg-CO2	41,336kg-CO2
廃棄物排出量		
1) 一般廃棄物	121kg	119kg
2) 産業廃棄物	3.63t	3.56t
総排水量(水使用量)	21m <sup>3</sup>	21m <sup>3</sup>
化学物質使用量	PRTR法対象物質は使用していない。その他の物質を3品目(①PAC②10%硫酸③消石灰)使用しています。但し、処理工程が決められており自らの判断で削減することができませんが化学物質を適正に管理していることを定期的に確認します。	
グリーン購入	1、グリーンカレンダー 4、コピー用紙 2、油圧ショベル 3、太陽光発電	グリーン購入を推進していく
社会貢献活動	搬入道路の整備	搬入道路の整備

※2012. 9～2013. 8 廃棄物処分量 40,338t

※2015. 9～2016. 8 廃棄物処分量 21,196t

## 5 環境活動計画

### (1) 二酸化炭素排出量の削減

#### ① 電力使用量の削減

- ◆ 室内温度は、冷房時28℃、暖房時は、20℃の設定にする。
- ◆ 電気製品の買い替えの際は、省エネタイプの機器を選定する。
- ◆ 昼休みなど、不要な照明を消灯する。
- ◆ 席を離れるときは、PCをスタンバイモード、外出時はシャットオフ。
- ◆ 電気スイッチ付近に節電のステッカーを貼り、意識の徹底を図る。

#### ② 灯油使用量の削減

- ◆ 室内温度は、暖房時20℃の設定とする。

#### ③ ガソリン・軽油使用量の削減

- ◆ エコドライブの徹底。
- ◆ 車両入替時は、エコカーを優先して購入する。
- ◆ 無駄なアイドリングをしないよう意識の徹底を図る。

### (2) 廃棄物排出量の削減

#### ① 一般廃棄物

- ◆ 分別を徹底し、可能な限りリサイクルする。
- ◆ 外部からのゴミはなるべく持ち込まない。
- ◆ 両面コピーや縮小コピーの励行。

#### ② 産業廃棄物

- ◆ 水処理施設における薬品の適量化による発生汚泥の抑制。
- ◆ 産業廃棄物の再資源化に取り組みリサイクル率の向上を図る。

#### ③ 排水量(水使用量)の削減

- ◆ 洗車時や手洗い時など水をだしばなしにしない。
- ◆ 手洗い場などへの節水ステッカーを貼り付けし意識の徹底。

#### ④ 化学物質使用量

- ◆ 化学物質使用量の適正管理に努める。

- ⑤ グリーン購入の推進
  - ◆ エコマーク製品などの環境配慮配慮製品を積極購入する。
- ⑥ 社会貢献活動の推進
  - ◆ 地域の清掃活動等に積極的に参加する。
  - ◆ 搬入路などの道路整備、草刈り等の実施。
- ⑦ 浸出水の排水の水質管理
  - ◆ 社内で、排水基準を設けて適正に管理する。

	県条例	二本松市条例	社内基準
PH	5.8～8.6	5.9～8.1	5.9～8.1
BOD	25	20	17
COD	25	20	17
SS	70	40	20
油分	5	5	3

## 6 環境目標の実績 (2015. 9～2016. 8)

対象取組期間における環境目標の達成状況は下記に示すとおりです。

### (1) 二酸化炭素排出量

#### ① 全体(目標:1.8%削減)

	2012年度実績	2015年度目標	2015年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	61,937	60,822	69,691	8,869	15
原単位(kg-CO2/t)	1.5		3.3		

コメント

全体的に、基準年よりも埋立量は約半分位減っているにも関わらず目標達成には至れませんでした。重機オペレーター教育、場内の面積も広くなり浸出水の増加により施設内の稼働時間も多くなりました。来年度は、少しでも目標達成の数字に近づけられるように従業員と話し合って対策していきたいと思っております。

#### ② 電力使用量(目標1.8%削減)

	2012年度実績	2015年度目標	2015年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	19,438	19,088	18,023	-1,065	-6
原単位(kg-CO2/t)	0.5		0.9		

コメント

太陽光を3年前に管理棟、水処理施設の屋根に設置したことで使用量を削減できました。今後も、継続していきます。

#### ③ 灯油・LPG使用(目標1.8%削減)

	2012年度実績	2015年度目標	2015年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	405	398	754	356	89
原単位(kg-CO2/t)	0.0		0.0		

コメント

基準年に比べると排出量も増えていますが、従業員も増え使用量も増加してしまいました。今後は、これ以上排出量が増えないように従業員にコマメな温度管理等を徹底していきたいと思っております。

#### ④ ガソリン・軽油使用(目標1.8%削減)

	2012年度実績	2015年度目標	2015年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	42,094	41,336	50,912	9,576	23
原単位(kg-CO2/t)	1.0		2.4		

コメント

増加の原因としては、重機オペレーターの新人教育をしている為、フル稼働で動いているので、増加となったと考えられる。新人教育が終われば、アイドリングストップ等を実施していくことで削減できるよう、推進していく。

### (2) 廃棄物排出量

#### ① 一般廃棄物(目標1.8%削減)

	2012年度実績	2015年度目標	2015年度実績	削減量	削減率 %
kg	121	119	105	-14	-12
原単位(kg-CO2/t)	0.0		0.0		0

コメント

日頃から従業員一人一人が意識をして取り組んでいるおかげで目標達成できました。今後も、継続していきたい。



② 産業廃棄物(目標1.8%削減)

	2012年度実績	2015年度目標	2015年度実績	削減量	削減率 %
kg	3,630	3,565	35,180	31,615	887
原単位(kg-CO2/t)	0.1		1.7		

コメント 処分場の埋立て面積が広くなり浸出水も増え、水処理施設の稼働時間、薬品の使用量も増えたため増加となりました。汚泥の排出量を抑えるために今後は、薬品とかの適量化を検討していきたい。

(3) 総排水量・水使用量

① 水使用量(目標1.8%削減)

	2012年度実績	2015年度目標	2015年度実績	削減量	削減率 %
m <sup>3</sup>	21	21	32	11	52
原単位(kg-CO2/t)	0.0		0.0		0

コメント 基準年と比べると増加になってしまいました。今後は、コマメな蛇口の開け閉めをして節水活動し目標達成していきたい。

② 排水処理施設の処理水量(1.8%削減)

	2012年度実績	2015年度目標	2015年度実績	削減量	削減率 %
m <sup>3</sup>	12,193	11,974	16,614	4,640	39
原単位(kg-CO2/t)	0.3		0.8		

コメント 処分場の埋立て面積が広がったことから、浸出水も増え処理水量が増加した。雨量も、基準年より多かったことで増加した。処分場内への雨水の流入を減らすことを検討していきたい。

(4) 化学物質使用量の削減

PRTR法対象物質は使用していない。その他の物質を3品目(①PAC②10%硫酸③消石灰)使用している。但し、処理工程は決められており自らの判断で削減することは出来ませんが化学物質の適正に管理していることを定期的に確認します。

(5) グリーン購入

2015年度は、事務用品など多数購入しました。

(6) 社会貢献活動

夏季には、搬入路の除草作業、及び道路の凹部へ碎石を入れたり、凸部を平らにするなどの整備を実施。また、冬期間は除雪を実施しました。

7 環境活動計画の取組結果の評価並びに次年度の取組内容

(1) 環境活動計画の取組状況の評価

○…十分に取組んだ △…ある程度取組んだ ×…取組み不十分(未実施) —…評価保留

取組項目	具体的動計画	評価	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	◆室内温度は、冷房時28℃、暖房時20℃の設定とする	△
		◆電気製品の買い換えの際は、省エネタイプの機器を選定する	—
		◆昼休み等、不要な照明を消灯する	○
		◆席を離れるときは、PCをスタンバイモード、外出時はシャットオフ	○
		◆電気スイッチ付近に節電のステッカーを貼り、意識の徹底を図る	○
	灯油使用量の削減	◆室内温度は、暖房時20℃の設定とする	△
	ガソリン・軽油使用量の削減	◆エコドライブの徹底	○
		◆車両入れ替え時は、エコカーを優先して購入する	○
		◆無駄なアイドリングをしないよう意識の徹底を図る	△
の廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	◆分別を徹底し、可能な限りリサイクルする	○
		◆外部からのゴミはなるべく持ち込まない	○
		◆両面コピーや縮小コピーの励行	○
	産業廃棄物	◆水処理施設における薬品の適量化による汚泥量の抑制	○
		◆産業廃棄物の再資源化を推進することでリサイクルの向上に結びつける	○
排水量(水使用量)の削減	◆洗車時や手洗い時など、水を出しっぱなしにしない	○	
	◆手洗い場などへの節水ステッカーの貼り付けし意識の徹底	○	
化学物質使用量の削減	◆化学物質使用量の削減及び適正管理に努める	○	
グリーン購入の推進	◆コピー用紙等のグリーン購入の推進	○	
社会貢献活動の推進	◆地域の清掃活動等に積極的に参加する	○	
	◆搬入路などの道路整備、草刈り等の実施をする	○	

(2) 次年度の取組内容(方向性)

本年度、未達成部分について、再度、取組をしていく。また、本格的な取組の方向性については、本年度末(H28. 8)以降、代表者の見直しを経て来年度の取組の方向性を決定します。

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

現在まで、環境関連法規等の遵守状況を確認しましたが、違反状態は認められませんでした。また、過去3年間関係当局からの違反等の指摘や指導、あるいは、外部からの訴訟についてもありません。

## 9 代表者による全体評価と見直しの結果

今年度のエコアクション21を評価してみる。まず、結果を見ると基準年より二酸化炭素の排出量が増えてしまいました。主な要因としては、重機オペレーターの新人教育訓練をしている為の結果と思われる。また、基準年に比べて従業員も増え施設で使う電気、ガス、水道、ガソリンも増えた要因と考えられます。

産業廃棄物の排出量も増加となりました。これは、処理施設の処理水量に関係していると思います。今、処分場内は1番埋立て面積が広く降った雨が浸透してくる浸出水も多く、水処理施設の稼働時間も増えたことで汚泥の発生量も増えました。今後は、浸出水、汚泥の発生量を減らす対策を考えていきたいと思います。

来年度は、今年度目標達成出来なかった項目に重点を置いて、分析をして取り組み内容を検討し来年度に活かされるように活動していきたいと思います。従業員一人一人が、意識をして活動していけば目標を達成していけると思います。

処理工程概略図

